

平成 27 年度 美唄サテライト・キャンパス実施計画(案)

1 設置目的

- 美唄市は、少子高齢化が進展し地域経済も停滞するなど大変厳しい環境にあり、また、専修大学北海道短期大学が平成 25 年に閉学、北海道中央コンピュータ・カレッジにおいては平成 25 年度から募集停止した状況の中で、地元で高等教育を受ける機会を創出し、活力あふれるまちづくりを進めるため、多様な人材の育成を図る目的で、札幌国際大学、札幌大学、札幌大谷大学等のご協力をいただき、平成 24 年度に開設しました。

2 基本的な考え方

- 「まちづくりは、人づくり」と言われるように、地域の特性を最大限に生かしながら、活力あふれるまちづくりを進めるため、次に掲げる視点を踏まえ、市内のスポーツ施設、文化芸術施設、豊かな自然環境（近代化遺産を含む）などを活用し、講座の開催や大学との連携による協働事業の実施を通じて、市民との交流も含め、高等教育を受ける機会を地元で用意することが、まちの将来を展望したときに不可欠であると考えています。

＜活力あふれるまちづくりを進めるための視点＞

- ①自治体のガバナンス能力の向上
- ②基幹産業である農業を核にした6次産業化など、ダイナミックな地域経済の展開
- ③豊かな暮らしの実現につながる生涯学習の充実
- ④次代を担う若者に対する質の高い教育の提供

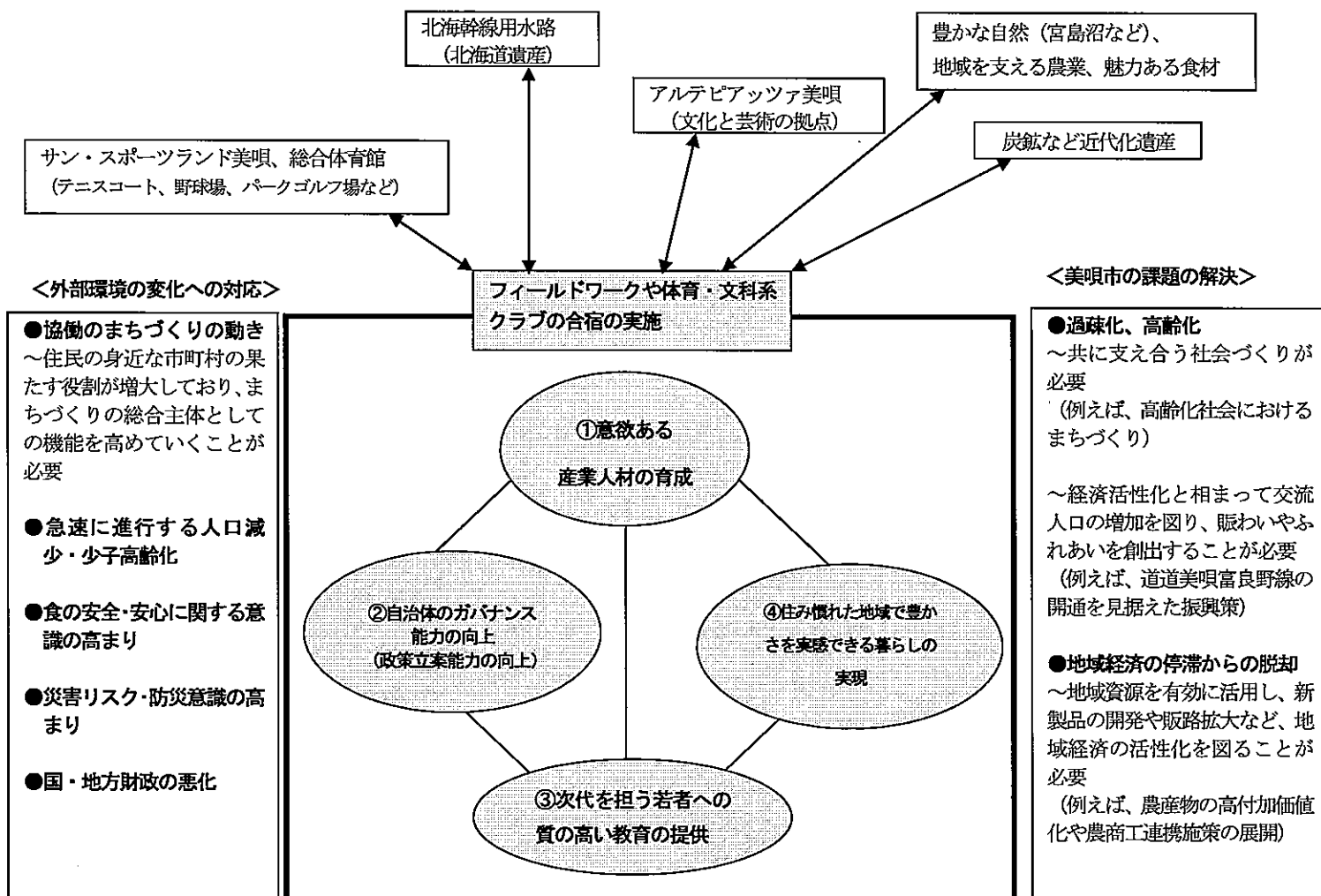
- 美唄サテライト・キャンパスは、外部環境の変化への適切な対応や市が抱える課題の解決も視野に入れながら、美唄市の地域資源である「食」「農」「環境」などを活かした地域づくりを進める意欲ある実践的人材の育成を通じ、様々な形で地域づくりにつなげていくことを基本として実施します。
- これまで、専門的なセミナーなどを受講するには、札幌市などに出向く必要がありましたが、美唄サテライト・キャンパスを開設したことにより、地元美唄市で受講することが可能となり、市民等の学習意欲に積極的に応えていくことが必要と考えています。
- また、こうした取組みに大学及び学生が参画することにより、大学の地域貢献はもとより、学生が実務も含めた教育を受けることが可能となり、即戦力としての人材を社会に送り出すことにもつながると考えられます。

3 サテライト・キャンパスの展開方針

- 外部環境の変化への適切な対応や市が抱える課題解決も視野に入れ、サテライト・キャンパスには、①意欲ある産業人材の育成、②自治体のガバナンス能力の向上、③次代を担う若者への質の高い教育の提供、④住み慣れた地域で豊かさを実感できる暮らしを実現する機能を兼ね備え、フィールドワークや体育・文化系クラブの合宿などを通じた交流も図って参りたいと考えています。
- また、将来的には、市内の事業者、従業員、市民に止まらず周辺市町の住民の利用も促進し、本市が南・中空知圏における広域的な人材養成拠点となるよう目指していきます。
- 美唄市・美唄市教育委員会と美唄商工会議所が主体となり、美唄市民はもとより、南・中空知圏の住民も対象とした「美唄サテライト・キャンパス」を札幌国際大学、札幌大学、札幌大谷大学等の全面的なご協力を得ながら事業成果の検証を行い、発展的に展開したいと考えています。

単年度事業の実施

- 市民向け各種講座の実施
- 地域（市・高校等）と大学との連携による協働事業の実施
- サテライト・キャンパスの更なる周知、機運を高める取組み など



4 平成26年度の実施結果（中間報告）

(1) 講座の実施について（11月4日現在、全講座終了）

- 16の講座の参加申込者の延べ人数は304人（昨年度＝284人／12講座）となり、1講座当たりの平均は、昨年度（実績値＝24人）より5人少ない19人となりましたが、ほぼ今年度の目標（今年度の目標値＝20人）は達成しました。（94％が美唄市に在住）
- 系統別の1講座当たりの平均は、産業系人材養成講座で21人、まちづくりを担う人材養成講座で24人、市民教養講座で15人となりました。
- まちづくりを担う人材養成講座においては、参加申込者の約6割が市職員となっていました。
- 男女別にみると、これまで産業系人材養成講座とまちづくりを担う人材養成講座は、男性が多い傾向にありましたが、産業系人材養成講座において「手描きPOP」と「農産物の加工」の講座に多くの女性が受講された結果となりました。また、市民教養講座は、これまで同様、受講者の半数以上が女性となりました。

<参加申込者の状況>

	産業系人材養成講座 (4講座)	まちづくりを担う人材 養成講座(4講座)	市民教養講座 (8講座)	全講座の合計・平均 (16講座)
参加申込者	84人	97人	123人	合計：304人
1講座当たりの 参加申込者数	21人	24人	15人	平均：19人
市内に在住	78人	92人	116人	286人（94％）
市外に在住	6人	5人	7人	18人（6％）
男性	37人	72人	50人	159人（52％）
女性	47人	25人	73人	145人（48％）

- 全回出席した者に修了証書を交付していますが、平成26年度は132名（16講座）に交付し、昨年の122名（12講座）を上回っています。（交付率43％）
- 出席者の約9割の方が「理解できた（理解度）」と回答しています。（全講座の平均は89％）
- 出席者の9割以上の方が「参考になった（有用度）」と回答しています。（全講座の平均は95％）

<出席者の評価>

	産業系人材養成講座	まちづくりを担う人材養成講座	市民教養講座	全講座の合計・平均
修了証書 発行数	45人	37人	50人	合計：132人
理 解 度	約93％	約92％	約85％	平均：約89％
有 用 度	約95％	約97％	約94％	平均：約95％
〔主な具体的回答〕	〔身近な事例や説明でわかりやすく参考になった。〕	〔今後に活かせる内容だった 気付けられる部分が、多々あった。〕	〔今まで学んだことのない内容で、ためになった。これから活用したい。 参加型の進行だったので理解が深まった。〕	

(2) 地域と大学との連携による協働事業

- 市内の小中学生などが専門的な技術指導や本物の美術作品に触れることができました。
また、市内の音楽団体や中高校生と大学生との音楽による交流により、技術の向上や今後の音楽活動の大きな支援になりました。

事業名	実施時期	実施内容
札幌国際大学卓球部によるレッスンと交流試合	6/4(日) (美唄市総合体育館) 11/22(土) 1月 (札幌国際大学)	美唄市教育委員会主催の全空知小中学生卓球大会参加者を対象に卓球フォームを映像等で記録し、記録したフォームを見てふりかえり、ワンポイントレッスンを受けた後、希望に応じて大学生との交流試合を行った。 今後においては、札幌国際大学へ市内卓球部員等を派遣し、レッスン及び学生との交流試合を実施予定。(11/22及び1月)
がんばれ美術の時間 オオタニアートキャラバン in 美唄 (事業終了)	8/19 (火) 峰中 8/21(木) 峰小 9/13(土)～ 9/15(月) 展示	札幌大谷大学美術科教職課程履修生発案による、『アートの世界に飛びこもう!』をメインテーマに、五感(視覚、聴覚、触覚、嗅覚、味覚)を使って鑑賞活動できるような作品構成で、峰延小・中学校に移動展覧会として作品を展示し鑑賞プログラムとワークショップを行った。 また、アルテピアッツァ美唄・体験工房にて成果発表を行い、ワークショップで作成した作品の展示と企画全般を記録した映像およびパネルを展示した。
札幌大谷大学輪声会・美唄市民合唱団 ジョイントコンサート	8月～11月 ワークショップ3回 11/30日(日) ジョイントコンサート	美唄市民合唱団および美唄市民と札幌大谷大学芸術学部音楽学科 則竹教授・輪声会との交流を通じて音楽活動の支援を図るとともに技術の向上を図る。 発表の場として、札幌大谷大学『輪声会』・美唄市民合唱団ジョイントコンサートを11/30市民会館で開催する。 なお、体験型講習として8月から10月の期間に3回にわたるワークショップを行い交流の場を設けた。
札幌国際大学シアターオーケストラ 及び札幌交響楽団 OB による、美唄市内の吹奏楽団体との合同演奏 (事業終了)	11/8(土) ワークショップ 11/9(日) 合同演奏	音楽交流による「まちづくりキャンプ」として、札幌国際大学シアターオーケストラと札幌交響楽団 OB が、美唄市内の中学・高校を含む吹奏楽団体とともに、ワークショップを通じ交流と技術向上を図りながら、合同演奏会に向けた練習を行った。 発表の場として、美唄市民文化祭の音楽祭に「美唄サテライト・キャンパス with 札幌国際大学」として出演した。
出前授業 (美唄尚栄高校)	9/19 (金) 2年 10/16(木) 3年 12/9(火) 2年 (予定)	選択科目教科の1授業として実施 (地理B、現代史、社会教養)。 札幌国際大学:「農業を活かした観光振興」 札幌大学:「アイヌ民族と北海道」 札幌大谷大学:「都市環境をコミュニケーションから考える」 参加者: 9/19(2年7名)、10/16(3年12名)、12/9(2年11名) 予定

(3) 中間総括

■講座について

・1講座当たりの平均は昨年の実績値(実績値24人)を下回る19人となっていますが、ほぼ今年度の目標(20人)に達したものと考えています。また、参加申し込み延べ人数においては、昨年の284人を上回る304人となり、美唄市内はもとより、周辺市町にも少しずつ浸透しつつあります。

・1講座当たりの平均は、産業系人材養成講座で21人、まちづくりを担う人材養成講座で24人と目標人数を超える結果となりました。また、市民教養講座では15人となりましたが、講座数の増加による受講者の分散が原因と考えられます。

・講座の実施に当たっては、実習や現地調査も盛り込んだ方が実践的な知識や技術を習得しやすく、参加者の満足度が高い傾向にありました。

・全講座に占める市職員の割合は、約3割(89人/304人)でありましたが、まちづくりを担う人材養成講座においては約6割と市職員の受講が顕著であり、講座の内容により市職員向け講座として独立させた開催も検討する必要があるものと考えています。

・受講者の理解度、有用度からニーズに即した講座の展開ができているものと考えています。

■協働事業について

・協働事業の実施により、市内の小中学生などが専門的な技術指導や本物の美術作品に触れるなど、心身ともに豊かさを実感できたものと考えています。また、市内の音楽団体や中高校生と大学生との音楽による交流により、技術の向上や今後の音楽活動の大きな支援につながり、成果を挙げていると考えています。

- ・次代を担う若者や地域で活動する市民団体等が、地元でこうした経験ができることにより、美唄に愛着を持つ契機となり、市民との協働によるまちづくりを進めることができると考えています。
- ・大学及び学生に多様な形で実践的な教育活動の場を提供できたものと考えています。

■全体について

・美唄サテライト・キャンパス事業を行うことが、地域資源を活かした地域づくりを進めることにつながることはもとより、大学の地域貢献に対する取組が評価されるように、講座や協働事業をより一層効果的に進める必要があると考えています。このため、平成27年度においても札幌国際大学、札幌大学及び札幌大谷大学等からご意見・ご協力をいただきながら、実践的な人材の育成が図られるよう実施して参りたいと考えています。

5 平成27年度の事業の進め方（たたき台）

(1) 基本的な考え方

- 平成27年度においても、活力あふれるまちづくりを進めるため、引き続き、美唄市の地域資源である「食」「農」「環境」などを活かし、新たな地域づくりを進める意欲ある実践的な人材の育成を主眼とし、実践的な知識の習得から、様々な形で地域づくりにつなげていくことを基本として実施します。
- 講座の開催に加え、地域と大学との連携による協働事業の実施を通じて、次代を担う若者に対する質の高い教育の提供を図り就学（学習）意欲を高め、地域に愛着を持ち、美唄の地域づくりに様々な面から携わり、活躍する人材の育成が図られるよう展開して参ります。
- また、将来的には、市内の事業者、従業員、市民に止まらず周辺市町の住民の利用も促進し、本市が南・中空知圏における広域的な人材養成拠点となるようカリキュラムを設定して参りたいと考えています。

(2) 講座の実施について

- 講座の数については、受講者のニーズなどを踏まえ、「産業系人材養成講座」は3講座、「まちづくりを担う人材養成講座」は4講座、「市民教養講座」は7講座を目途に実施したいと考えています。
- 大学との連携を図り、効果的な事業の展開を図るため、春～夏期（5月頃～7月頃）、秋期（9月頃～11月頃）に分けてカリキュラムを実施することとし、毎年度、事業成果を検証しながら、魅力あるカリキュラムの実施に努めて参ります。
- 平成28年度以降の講座の数については、受講者のニーズや参加申込者数等の動向を勘案しながら検討・実施して参ります。
- これまでの「まちづくりを担う人材養成講座」において、市職員のスキルアップにも繋がる内容の講座を実施してきましたが、平成27年度からは、美唄サテライト・キャンパス事業から派生した取組として、2～3講座を職員研修と位置づけ実施したいと考えています。
- 担当していただく講師への1コマあたりの謝金については、今年度と同額の8,000円（交通費込み）でお願いしたいと考えています。

<講座の運営方法等>

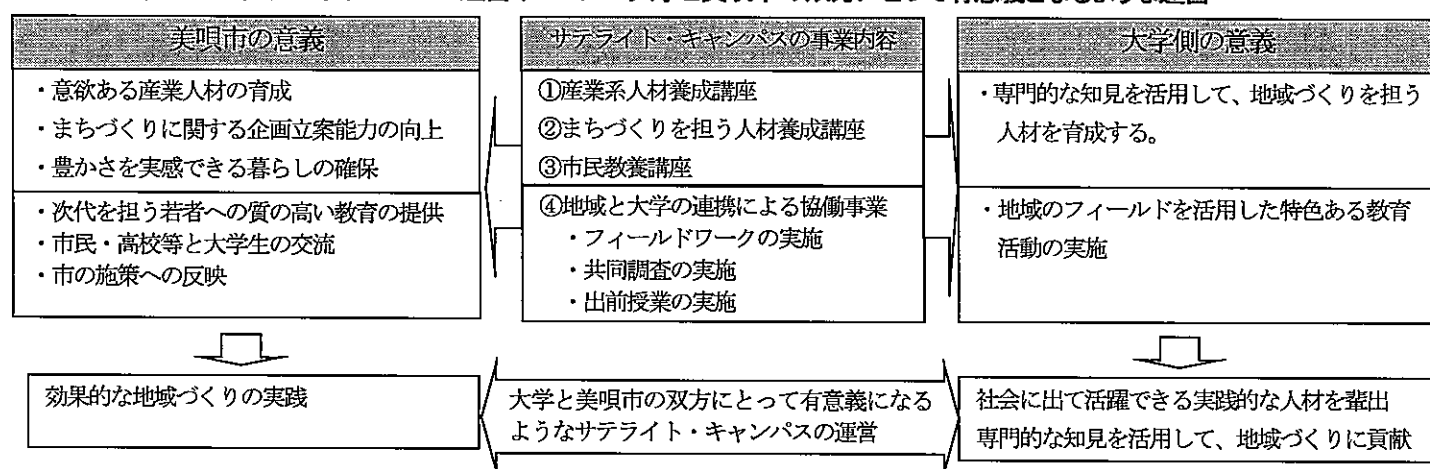
- ・受講者のニーズや講座内容を勘案し、各講座のコマ数については5コマ前後を基本とし編成したいと考えています。
- ・受講料については、講座内容を勘案し材料費等必要な経費の一部についても受講者に負担していただく考えで、各講座に応じて設定することとしたいと考えています。また、次代を担う若者に対する質の高い教育の提供を図る観点から、引き続き高校生以下の受講料を無料としたいと考えています。

・開催曜日及び時間帯については、受講者アンケートの結果を踏まえ、平成26年度と同様に、「産業系人材養成講座」及び「まちづくりを担う人材養成講座」は働いている方を主なターゲットとして平日の夜に、また「市民教養講座」は女性も含めた市民を主なターゲットとして土曜日の日中に開催したいと考えています。

・市民教養講座の美術系の講座など、講座の内容により1日に複数のコマ数を設定するなど短期集中型の講座運営も考えています。

・講座運営に関する課題等を共有するため、講座の開催結果を当該講師及び他の大学に報告することとしたいと考えています。

■美唄市のサテライト・キャンパスの運営イメージ～大学と美唄市の双方にとって有意義となるような運営



①産業系人材養成講座（3講座程度）

美唄市の地域資源を活かしながら、地域の産業を担う人材の育成が図られるよう、平成24～26年度の講座内容を踏まえ、美唄市に密着した専門的な内容、あるいは受講後に実践に結びつくような、より魅力的な講座を開催したいと考えています。

講 座 名	主なターゲット	実施大学	コマ数	実施時期
繁盛店の必修アイテム！それが手描きPOP（ポップ）2		札幌大学	5	
スポーツと連動した観光振興とSNSツールの活用法		札幌国際大学	4	
食のブランド化／農福連携の仕組みづくり		酪農学園大学	3	

②まちづくりを担う人材養成講座（4講座程度）

市、関係団体に加え、一般企業の職員の企画立案能力の向上が図られよう、スキルアップにつながるような講座を開催したいと考えています。

講 座 名	主なターゲット	実施大学	コマ数	実施時期
文章力のUP		札幌大谷大学	5	
プレゼンテーション能力のUP		札幌大谷大学	5	
協働の力による効果的なまちづくり		札幌大谷大学	3	
安全・安心なまちづくりを目指して～身近な法律学～		札幌大学	3	

※上記講座から2～3程度を職員研修として位置付け実施したいと考えています。

③ 市民教養講座（7講座程度）

市民の豊かな暮らしの実現に向けて、生涯を通じて広く学ぶことができるよう、ある程度の専門性を確保しつつ市民の関心も高い講座を中心として開催したいと考えています。

語学に関する講座については、語学力アップには継続的な学習が必要であることも考慮し、継続して開催したいと考えています。

講 座 名	主なターゲット	実施大学	コマ数	実施時期
食と農・健康の大切さについて		酪農学園大学	3	
楽しく学ぶ韓国語（旅行会話編）		札幌国際大学	6	
楽しく学ぶ英会話（日常会話編）		札幌国際大学	6	
美術系講座（水彩画、彫刻など）		札幌大谷大学	4	
美唄を写そう！		札幌国際大学	4	
アイヌ文化と北海道		札幌大学、地元講師	4	
太らない体の作り方		札幌大学	4	

(3) 地域と大学との連携による協働事業（5事業）

- 大学の専門的な知見を活用しながら「地域と大学との連携による協働事業」（以下、協働事業という。）を実施し、高校生などに多様な教育の場を、大学生に実践的な教育活動の場を提供して参ります。
- 協働事業は、相互互惠の関係に立って、永続的にキャンパス事業を進めていく上での中核的事業と位置付け、これまでの事業成果も踏まえ、発展的に展開していく方向で平成 27 年度以降も実施したいと考えています。
- 年度途中で、大学から協働事業のご提案があった場合は、大学間の情報共有を図りながら、予算の範囲内で実施の可否について検討して参りたいと考えています。
- 協働事業の数については、平成 27 年度も 3 つの事業（1 大学あたり 1 事業）を基本として実施したいと考えていますが、各大学の意向や状況も十分に踏まえながら実施したいと考えています。
- 出前授業（各大学主催の出張講座等）については、次代を担う若者に質の高い教育を提供し、学習意欲やまちづくり、仕事にチャレンジする意欲を高めるような内容として実施したいと考えていますが、美唄尚栄高校とも協議したうえで、別途、実施に向けて検討して参ります。
- 協働事業において、三大学の体育・文化系クラブの合宿を通じた市民との交流などについて検討して参りたいと考えております。

内 容	検討依頼大学	実施日数	実施時期
①大学生と市民による共同調査・取組み等			
例：スポーツを通じた技術向上と交流の取組み	札幌国際大学		
②大学生と地域（商工会議所）による共同調査・取組み等			
例：地域の魅力についての共同調査	札幌大学		
③大学と市民との協働による芸術創作活動			
例：音楽活動	札幌大谷大学		

④大学の体育・文化系クラブの合宿についての調査研究			
例：地域資源を活用した短期合宿	3大学		
⑤出前授業の実施 ○美唄尚栄高校に意向を確認し、平成26年度と同様に、 1大学当たり1つの出前授業 を実施したいと考えています。 ○ 具体的な授業のテーマや実施時期、実施方法（総合的な学習の時間または、通常授業の延長で実施するなど）、対象学年について、新年度に入った段階で、美唄尚栄高校と協議した上で、大学側に提案して参りたい。	3大学	各2コマ (1コマ当たり約50分)	

(4) 総括・まとめ

成果発表会・交流会 市民（市職員を含む）を対象に実施し、政策提言などの発表を通じて、キャンパスの存在意義を市民に浸透させていくとともに、受講生同志、受講生と講師、又は講師間の交流を図れるよう開催します。	2月頃
---	-----

6 実施体制

- 事業主体：美唄サテライト・キャンパス運営協議会
(事務局は、市、市教委及び商工会議所が連携して担当)
- 市、市教委、美唄商工会議所、観光物産協会、(社)地域人材開発センターにより組織している「美唄サテライト・キャンパス運営協議会」が安定的に運営していくには、魅力ある教育プログラムなど、多くの関係者の協力を得ながら着実に事業を推進することが重要であり、引き続き、札幌国際大学、札幌大学及び札幌大谷大学をはじめとする関係団体の参画をお願いしたいと考えています。
- 各講座の運営について、市は「まちづくりを担う人材養成講座」、市教委は「市民教養講座」、また、商工会議所においては「産業系人材養成講座」を担当します。
「地域と大学との協働事業」については、市、市教委及び商工会議所（以下「三者」という。）が相互に連携しながら、事業成果が最大限になるよう努めて参ります。

(1) 運営方法の検証

- 効果的かつ効率的な講座を実施するため、平成27年度においても、講座運営を担当する三者は、実施効果の検証、効果測定に取り組むこととします。
- ①三者は、講座開催毎に受講者のアンケート調査結果（速報版）を取りまとめ、講師に送付します。
 - ②三者による反省・検証会を定期的に実施し、講座運営の実効性を高めます。
 - ③講座運営に関する課題等を共有するため、講座の開催結果を三者及び3大学の窓口となっていていただく方へも報告したいと考えています。【メール送信】
- 協働事業の実施に当たっては情報共有を図るため、適宜3大学への情報発信に努めて参ります。

(2) 実施効果の検証

- より一層魅力ある講座を設定するため、受講者へのアンケート調査に加え、関係団体等からもヒアリング調査を行います。
- 受講者アンケート調査結果等を取りまとめ、札幌国際大学、札幌大学及び札幌大谷大学を交えた検討会を開催（11月、3月予定）し、①次年度以降のサテライト・キャンパスに関する考え方、②運営方法、③予算、④カリキュラムについて、次年度以降の事業が効果的なものとなるよう協議して参ります。